

## 「被災地支援（ボランティアバス） ボランティアを通して」 宮城県上沼高等学校

### 1. 活動の概要

7月9日（土）登米市社会福祉協議会による被災地支援（ボランティアバス）ボランティア活動で、南三陸町歌津馬場地区の復興ボランティアに参加しました。生徒会メンバーを中心に、農業クラブ、家庭クラブ委員、そして全校から募集した生徒あわせて21名（男7名、女14名）と教員3名の参加となりました。

バス中は和やかで楽しそうでしたが、いざ被災地に入ると被害の大きさに驚き、静まりかえってしまいました。ボランティアセンターでも、たくさんの大型バスで遠方よりボランティア活動に来られた方々を見て、ボランティアの方々の心のあたたかさに関心をしていました。



男子瓦礫分別

その後、歌津馬場地区でボランティア活動を行い、男子は午前には瓦礫の分別、午後は住宅の瓦や瓦礫の分別、女子は午前・午後ともに支援物資の仕分け作業を行いました。この日は、県内でも南三陸町の気温が一番高く、25℃を越える炎天下の中の作業で、休憩と水分補給をしながら黙々と作業をこなしました。男子は終了する頃には、顔や肌を出している部分が真っ赤に日焼けし痛々しくなっていました。近くの井戸で顔や腕を洗い、とても気持ち良さげでスッキリ作業を終えました。女子は幸運にも支援物資で頂いた麦わら帽子をかぶっての作業で、日焼けすることなく、被災された地域の方々に届けられた物資の半分程

度を仕分けをすることができました。最後には、地域の方々や担当のボランティアの方々より感謝の言葉をいただき、記念撮影をして被災地を後にしました。



女子支援物資の仕分け

### 2. 活動の成果等

被災の現状を初めて見た生徒が半分以上で、あまりにもひどい状況に、「何かしなくては」や、多くのボランティアの方々を見て、「自分たちも何度も参加しなくては」と、申し出をする生徒もおり、「自ら進んで」という意識が向上したと思われる。



記念撮影